

ふりがな

はしもと なおこ

氏名

橋本 直子

1. 学歴

- 1994年4月 聖心女子大学文学部歴史社会学科国際交流 入学
専攻：国際関係学
- 1998年3月 同大学 卒業
取得学位：文学学士（国際関係）
- 1998年9月 ロンドン大学 SOAS, Foundation Diploma 入学
専攻：国際関係論、開発学
- 1999年7月 同大学 卒業、Diploma 取得
- 1999年10月 オックスフォード大学国際開発学院 難民研究所修士課程 入学
専攻：難民・強制移住学、国際難民法
- 2000年7月 同大学院卒業、「強制移住学修士号」取得 (69)
修士論文2本は双方とも Distinction 取得
- 2008年4月 早稲田大学大学院法務研究科 入学（職務の都合上5年間休学）
- 2012年5月 ロンドン大学高等法務院国際プログラム（通信教育）コース 入学
- 2013年3月 早稲田大学大学院法務研究科 退学
- 2015年9月 サセックス大学グローバル研究科博士課程 入学
（*2015年9月から2017年7月まではロンドン大とサセックス大双方に在学）
- 2017年8月 ロンドン大学高等法務院国際プログラム 卒業
法律修士号（国際公法・国際人権法）取得
- 2019年6月 博士号（政治学）取得

2. 職歴・研究歴

- 2000年10月1日～2001年3月31日
（財）日本国際問題研究所、アジア太平洋研究センター非常勤研究員
外務省経済協力局委託調査「アジアの発展の経験」研究事業幹事
- 2001年5月1日～2003年7月31日
日本政府外務省在ニューヨーク国連代表部社会部、専門調査員
人道・人権問題、特に女性・子ども問題を担当
- 2004年1月4日～2005年7月31日
国際移住機関（IOM）ジュネーヴ本部総合政策局人身売買対策課
プログラム・オフィサー、アジア・アフリカの人身売買対策事業、政策立案、調整を担当
- 2005年8月1日～2006年12月31日
国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）スリランカ・ワウニヤ事務所
准法務官として帰還民・国内避難民の人権、法律問題を担当
- 2007年3月1日～11月30日
日本政府外務省、総合外交政策局人権人道課 非常勤調査員
国際難民法・国際人権法・人道法・難民法に関する調査・アドバイスを担当

2007年8月1日～2015年8月31日

国際移住機関 (IOM) 駐日事務所 プログラム・マネージャー

日本における移民・難民政策に関する活動・政策提言担当

2010年7月1日～2013年6月30日 (※上記 IOM と兼任)

法務省「入国者収容所等視察委員会」西日本委員

2017年7月1日～現在

ロンドン大学高等研究院難民法イニシアチブ

修士課程論文指導官・審査官

2019年2月1日～5月31日

サセックス大学国際関係学科「Politics of Foreign Policy」セミナー担当チューター

(合計 70 名の学部生のゼミを毎週 3 クラス担当)

2019年6月1日～現在

一橋大学大学院社会学研究科グローバル・リーダーズ・プログラム 准教授

(学部の授業は全て英語にて実施、大学院の講義のみ日本語)

3. 学内教育活動

(A) 主な担当講義名

(a) 学部学生向け

- ・ GLP セミナーI
- ・ GLP セミナーIIA
- ・ GLP セミナーIIIB
- ・ 企画と実践 I
- ・ 企画と実践 II
- ・ Refugee and Forced Migration Studies
- ・ 発信英語力

(b) 大学院

- ・ 難民移民政策論
- ・ Refugee and Forced Migration Studies
- ・ 発信英語力

(B) ゼミナール

(※ GLP を主担当とする任期付き教員であるため、非該当)

4. 主な研究テーマ

- ・ 難民・移民政策論
- ・ 強制移住学・難民学
- ・ 政治学、国際関係論
- ・ 国際機構論
- ・ グローバル・ガバナンス
- ・ 国際難民法・人権法・人道法・刑事法

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- ・ Shiobara et al. *Migration Policies in Asia*, Sage 共編著) Sage、2020 年 (分担部分「Part 3: Irregular Migration, Forced Migration and Statelessness: Introduction」、pp. 117-128)
- ・ S. Takahashi and A. Kihara-Hunt (eds.) *Civil and Political Rights in Japan: a tribute to Sir Nigel Rodley* 共著)、Routledge、2019 年 (分担部分:「Stratification of Rights and Entitlements among Refugees and Other Displaced Persons in Japan」、pp.128-142)
- ・ 滝澤三郎編『難民を助ける 30 の方法』(共著) 合同出版、2018 年 (分担部分:「EU 諸国における難民・庇護申請者家族のホストファミリー制度」、pp.36-39)
- ・ 移民政策学会設立 10 周年記念論集刊行委員会編、『移民政策のフロンティア: 日本の歩みと課題を問い直す』(共著)、明石書店、2018 年、(分担部分:「シリア難民」(コラム)、p. 108)
- ・ 駒井洋監修・人見泰弘編集『難民問題と人権理念の危機 (国民国家体制の矛盾)』移民・ディアスポラ研究 6、(共著) 明石書店、2017 年 5 月 (分担部分:「難民問題と Brexit (英国の EU 離脱)」、pp.178-182)
- ・ 滝澤三郎・山田満編『難民を知るための基礎知識』(共著) 明石書店、2017 年 1 月 (分担部分:「ヨーロッパにおける難民問題」、pp.206-246)
- ・ 長嶺義宣・外山聖子編『世界の現場で僕たちが学んだ「仕事の基本」』(共著) 阪急コミュニケーション、2014 年 6 月 (うち計 4 章を担当)
- ・ 墓田桂・杉木明子他編『難民・強制移動研究のフロンティア』(共著)、現代人文社、2014 年 (分担部分:「混在移動: 人身取引と庇護の連関性」、pp.244-262)
- ・ 吉原和男編『現代における人の移動 - アジアの中の日本』(共著) 慶應義塾大学東アジア研究所叢書、慶應義塾大学出版会、2013 年 3 月 (分担部分:「新日系フィリピン人の現状-日比の比較を通して」、pp.231-246)
- ・ 駒井洋監修、鈴木江理子編『東日本大震災と外国人移住者たち』移民・ディアスポラ研究 2 (共著)、明石書店、2012 年 2 月 (分担部分:「国際移住機関 (IOM) による人道的帰国支援と在日外国人らの選択」、pp.233-243)
- ・ Bolesta, A. (ed) *International Development and Assistance; Where Politics Meets Economy* (共著)、Leon Kozminski Academy of Entrepreneurship and Management, Warsaw, 2004 年 (分担部分:「Limitations and Possibilities for the Coordination of NGOs in Complex Emergencies」)
- ・ Bolesta, A. (ed) *Conflict and Displacement; International Politics in the Developing World* (共著) Bialystok, Poland, 2004 年 (分担部分:「The Causes of Internal Displacement of Minority Groups in Kosovo in the Aftermath of the Bombing in 1999; Was Prevention Possible?」)
- ・ Bolesta, A. (ed) *Forced Migration and the Contemporary World; Challenges to the International System* (共著) Libra, Warsaw, 2003 年 (分担部分:「The United Nations and Internally Displaced Persons: At the Crossroads of Human Rights and Humanitarian Affairs」)

(b) 論文

- *Brian Aycocock and Naoko Hashimoto, 'Complementary Protection in Japan: To What Extent Does Japan Offer Effective International Protection for Those Who Fall outside the 1951 Refugee Convention?', *Laws* 10:16, MDPI, March 2021, <https://doi.org/10.3390/laws10010016>
- *'Refugee Resettlement as an Alternative to Asylum', *Refugee Survey Quarterly*, Vol. 37, Issue 2, March 2018, pp.162-186

- ・「難民条約上の『特定の社会的集団の構成員』という概念の国際法上の解釈」
移民政策研究（特集：岐路に立つ難民保護）2016年 vol.8、pp.55-70
- ・‘Refugee Resettlement to Japan and IOM’, *CDR Quarterly*, vol. 8, October 2013, Center for Documentation of Refugees and Migrants, Human Mobility Studies, Graduate School of Arts and Sciences, University of Tokyo, Japan, pp.85-106
- *‘Detention monitoring newly established in Japan’, *Forced Migration Review*, Issue 44, September 2013, Refugee Studies Centre, Oxford, pp.20-21
- *‘Counter-Trafficking in Japan’, *Forced Migration Review*, Issue 30, April 2008, Refugee Studies Centre, Oxford, pp.58-60

(d) その他

- ・「いま、ここにあるグローバル —日本から考える多文化共生／難民支援」、同志社グローバル地域文化学会紀要第14号（2020年3月）講演記録
- ・‘Japan Runs the Risk of Repeating the Migration Mistakes made by the “West”’, *Global Policy*, GP Opinion, Durham University, Wiley-Blackwell, 3 January 2019: available at: <https://www.globalpolicyjournal.com/blog/03/01/2019/japan-runs-risk-repeating-migration-mistakes-made-west> (last accessed 10 January 2019)
- ・‘Japan’s Tussle Over Immigration: An Interview with GGF2030 fellow Naoko Hashimoto’, *Global Policy*, GP Opinion, Durham University, Wiley-Blackwell, 20 June 2018, available at: <https://www.globalpolicyjournal.com/blog/20/06/2018/japans-tussle-over-immigration-interview-ggf-2030-fellow-naoko-hashimoto>
- ・‘Why does Japan recognise so few refugees?’, Refugee Law Initiative Blog on Refugee Law and Forced Migration School of Advanced Studies, University of London, 1 May 2018, available at <https://rli.blogs.sas.ac.uk/2018/05/01/why-does-japan-recognise-so-few-refugees/>
- ・‘How should the East Asian countries respond to a potential exodus of North Koreans in case of a Korean peninsula crisis? A crossroad between international refugee law, international humanitarian law, and international criminal law’, Refugee Law Initiative Blog on Refugee Law and Forced Migration School of Advanced Studies, University of London, 30 August 2017, available at <https://rli.blogs.sas.ac.uk/2017/08/30/how-should-the-east-asian-countries-respond-to-a-potential-exodus-of-north-koreans-in-case-of-a-korean-peninsula-crisis/#more-382>
- ・「安心して新たな人生を始めるために」難民の第三国定住を考える、国際人流第348号、2016年5月、pp.10-13
- ・「始まる！第三国定住」M-NET（移住労働者と連帯する全国ネットワーク情報誌）No.125、2009年12月号、pp.12-13
- ・「新日系フィリピン人と日本社会」、毎日フォーラム『視点』、2009年12月号、pp.40-41
- ・「世界の移民の現状と日本の課題」2008年11月18日講演記録（小冊子）、日本カトリック難民移住移動者委員会、2009年3月
- ・「北部スリランカにおける国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の活動」フィールドエッセイ、国連フォーラム、URL：http://www.unforum.org/field_essays/7.html、2006年7月
- ・‘Report of the Expert Group Meeting on Protecting Victims of International Trafficking’ Ministry of Gender Equality and the Ministry of Justice of the Government of the Republic of Korea, 2004, Seoul
- ・「アジアの発展の経験：アセアン諸国の発展における日本のODAの意義」共著、日本国際問題研究所、2001年

B. 本研究科着任後の研究活動（着任2019年）

(a) 国内外学会発表

- ・2019年12月3日 イギリス Birmingham 大学および早稲田大学共催「New and Old Diversities Exchange」国際学会において、難民の第三国定住パネルにおいて、イギリス・Sussex 大学の Linda Morrice 准教授と共同発表
- *2019年11月18日 日本国際開発学会・人間の安全保障学会 2019年共催大会の Global Governance Panel において、特別ゲスト講演者として「Pros and Cons of the Proliferation of“New Ways” of Admitting Refugees」について報告発表
- *2019年11月5日 同志社大学主催、第7回グローバル地域学会・学術講演会「いま、ここにあるグローバル：日本から考える多文化共生・難民支援」において、ゲスト講演者（2名のうち1名）として講演
- ・2019年6月3日 ロンドン大学難民法イニシアチブ第4回学会において、‘Why Did Japan Accede to the Refugee Convention in 1981, While Many Other Asian Countries Have Not?’というテーマでパネリストとして講演

(b) 国内研究プロジェクト

- *2019年12月14日 東京大学・井上達夫教授科研費プロジェクト「世界正義理念の再構築による移民難民政策の規範的指針の研究」研究会において、メインのゲスト講演者として「国際移住機関（IOM）の日本における活動と倫理的意味合い」について講演
- *2019年7月26日 上智大学比較文化研究所のレクチャーシリーズにおいて、‘Japan’s Refugee Policy and Practice: How has Refugees’ Agency Challenged Japan’s Refugee Protection Structure?’という題目で講演
- ・2020年7月3日 明治学院大学 国際平和研究所（PRIME）主催「世界難民の日」企画・公開オンラインセミナー 「ジェノサイド後のルワンダ難民、なぜ「母国」への帰還を拒否するのか」 単独コメンテーターとして登壇

(c) 国際研究プロジェクト

- *2020年11月19日 スウェーデン政府、Swedish Institute, University of Gothenburg 共催、中欧諸国ヤング・プロフェッショナル対象サマースクール（オンライン）
「日本における難民移民政策」について単独講師として講演（英語2時間）
- *2019年11月29日 Amsterdam Centre for European Studies 主催、国際会議「Active Refugee Admission Policies in Europe: Exploring an Emerging Research Field」において基調報告のゲスト・コメンテーターとして参加（SkyPe 経由）

(d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

- ・2019年11月27日 「The Sale of Citizenship」 Special lecture by Dr. Kristin SURAK, GLP レクチャーシリーズの一環として企画・運営
- ・2019年12月5日 笹川平和財団・一橋大学社会学研究科（GLP）共催 国際シンポジウム
「英国・難民の社会統合指標と日本への示唆」専門家会合において、イギリス・パネルのモデレーター
- ・2020年1月16日 「Why Protect Refugees?」 Special Lecture by Prof. David J Cantor, GLP レクチャーシリーズの一環として企画・運営

6. 学内行政

(A) 役員・部局長・評議員等

(※ GLP を主担当とする任期付き教員であるため、非該当)

(B) 学内委員会

(※ GLP を主担当とする任期付き教員であるため、非該当)

(C) 課外活動顧問

(※ GLP を主担当とする任期付き教員であるため、非該当)

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

- ・ 2017年7月1日～現在
ロンドン大学高等研究院難民法イニシアチブ、修士課程論文指導官・審査官
- ・ 2020年4月1日～現在
国際基督教大学大学院 非常勤講師「International Organization」担当
- ・ 2020年9月～現在
法政大学国際交流プログラム ESOP (交換留学生受入れプログラム)
「Global Governance」担当 (全て英語にて実施)

(b) 所属学会および学術活動

- ・ 2000年～ 全国難民弁護士連絡会議 (普通会员)
- ・ 2008年～ 日本移民政策学会 会員
 - ・ 2015年～2019年は理事
 - ・ 2019年からは編集委員
- ・ 2014年～ 無国籍研究会会員
- ・ 2015年～ ロンドン大学高等法務研究院「難民法イニシアチブ」リサーチ・アフィリエイト
- ・ 2015年～ 国際強制移住学会 (International Association for the Study of Forced Migration) 会員
- ・ 2017年7月～ 英国国際研究学会 (British International Studies Association) 会員
- ・ 2018年1月～2019年5月
ドイツ Robert Bosch Foundation 主宰「Global Governance Futures 2030」「世界の難民移民問題部会」の国際フェロー
- ・ 2019年7月～ 日本国際政治学会 会員
- ・ 2019年7月～ 日本国際人権法学会 会員

(c) 公開講座・市民講座

- ・ 2020年12月2日 国際日本語普及協会主宰の文化庁委託事業「難民のための日本語教育初任教师養成研修講座」第十回において、「世界の難民の現状」についてメイン講師として講義
- ・ 2019年11月2日 国際日本語普及協会主宰の文化庁委託事業「難民のための日本語教育初任教师養成研修講座」第二回において、「世界の難民の現状」についてメイン講師として講義

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

- ・ 2012年～14年 日本政府内閣官房「難民の第三国定住に関する有識者会議」常駐オブザーバー
- ・ 2017年1～6月 日本国際協力機構 (JICA)「シリア難民支援研究事業」難民政策アドバイザー

9. 一般的言論活動

テレビ・ラジオ出演歴

- ・2009年9月25日 NHK、21時のニュースにて移民問題に関して解説
- ・2014年1月31日 NHK「かんさい熱視線」スタジオにて移民問題に関して解説
- ・2014年2月15日 NHK、ニュースにて難民問題に関して解説
- ・2014年9月16日 テレビ朝日「報道ステーション」にて難民問題に関して解説
- ・2019年8月1日 TBS ラジオ荻上チキ「Session 22」スタジオにて難民問題に関して解説

➤インタビュー記事

- ・2009年9月26日 毎日新聞朝刊「顔」にて紹介
- ・2015年6月20日 国連フォーラム「国連職員NOW!」第161回にて紹介
(<http://www.unforum.org/unstaff/161.html>)
- ・2018年6月7日 英国オンラインニュース「Apolitical」紙、“Governments are resettling refugees but ignoring those at their door”という記事内で、難民の第三国定住政策についてのコメント掲載
(https://apolitical.co/solution_article/governments-are-resettling-refugees-but-ignoring-those-at-their-door/)
- ・2018年9月13日 AP通信社の“Osaka’s US Open win re-opens identity discussion in Japan”記事内で、大阪なおみ選手と日本の国籍についてのコメント掲載
(<https://apnews.com/e99f81448a4e438e9853936337cc1995>)
- ・2019年1月12日号週刊東洋経済「移民解禁」29ページにてコメント掲載
- ・2021年1月12日毎日新聞朝刊『コロナで変わる世界』にて難民問題についてコメント掲載

➤インターネット・ニュースサイト「ハフィントンポスト日本版」において、2016年7月より随時、難民・移民問題について解説記事を投稿（全39本）(<http://www.huffingtonpost.jp/naoko-hashimoto/>)

➤Forbes Japan のインターネットサイト上で、2019年7月より随時、移民政策・難民問題等について解説記事を投稿（全4本）<https://forbesjapan.com/author/detail/1695>

➤新聞記事：

- ・2016年8月2日付朝日新聞朝刊『私の視点』「庇護申請者による殺傷事件が起こるのはなぜか」
- ・2017年5月9日付朝日新聞朝刊『私の視点』「朝鮮半島有事で日本に大量に「難民」が流入するの？」
- ・2018年12月5日付毎日新聞朝刊『共生のために』「綿密な国家戦略不可欠」（投稿文）